大 学 等 名　　桜美林大学
テ ー マ 名　　テーマ４：他大学との統合・連携による教育機能の強化
取 組 名 称　　大学間連携による教養教育への総合的取組
取組学部等　　大学全体
取組担当者　　本郷　優紀子
取 組 期 間　　平成 16 年度～平成 18 年度
Ｗｅｂサイト　　http://www.obirin.ac.jp/001/a002.html

取組の概要

首都圏西部に位置する有志大学グループ（28 大学）は、大学間で連携し、現代に求められる大学教育の質向上のため、下記の 3 本の柱を立てて教養教育への総合的取組を行った。

Ⅰ．単位互換制度：各大学が提供する多彩な教養科目の中から、学生が履修したものを所属大学の単位として認定する「単位互換」を実施した（平成 11 年度より実施）。

Ⅱ．「共同授業」：半期ごとに学生の希望に合わせた統一テーマを設定し、隔週土曜に 180 分のオムニバス形式の教養科目としての「共同授業」を開講した（平成 13 年度より実施）。

Ⅲ．大学前教養導入教育：大学における教養教育の実現には、前段階における導入教育（大学前教養導入教育）が必要であることから、高校生に「共同授業」の受講を認める（平成 14 年度より）とともに、夏休み期間 2 泊 3 日で個々の大学の宣伝を廃した「高校生のための”大学”セミナー」を開催した（平成 15 年度より実施）。

さらに平成 16 年度より、サテライト授業やｅラーニングシステム・評価システムの構築を行うことなどにより従来の教養教育への総合的取組を深化させることができた。

実施の経緯・過程

○取組の実施状況

首都圏西部に位置する本学を含め 28 大学が、学生の大学入学後の学びを充実させるための教養教育への総合的取組みとして「単位互換」を実施した。

さらに、学生の興味関心のあるテーマに基づくオムニバスの「共同授業」の開講、大学前教養導入教育である高校生への「共同授業」の提供と「高校生のための”大学”セミナー」の開催を行った。

またそれらをより深化させるために、単位互換科目、「共同授業」、「高校生のための”大学”セミナー」のｅラーニング化を進めるとともに、授業評価による授業改善にも取組んだ。

○教育課程・教育方法の工夫

比較的小規模の単科大学が多い我々28 大学では、単位互換協定を結ぶことにより、学生に個々の大学では提供しにくい 1,000 科目にも上る幅広い教養科目を提供し、学びの触発を行った。

また、自大学の授業科目の受講などで時間的ゆとりのない学生の単位互換を促進するために、学生が受講しやすい土曜の午後に、学生の興味関心のある統一テーマによるオムニバス授業として「共同授業」を開講した。

さらに、多忙な学生の学びを支援するための工夫として、単位互換提供科目の一部と「共同授業」や「高校生のための”大学”セミナー」を、インターネットに接続できる環境のパソコンがあればいつでもどこからでも受講できるオンデマンド方式のｅラーニングとして配信した。

このｅラーニングでは、1 回の授業を複数のファイルに分割し、ファイルとファイルの間には、前のファイルで学ばせた内容がランダムに出題される確認テストを用意し、合格するまでは次のファイルに進めない仕組みを作り、最後まで到達した受講者のみ受講を認める工夫を施した。

ｅラーニングを実施する「共同授業」に関しては、学生によるアンケート調査以外に、ｅラーニングシステムを利用して、教職員による授業見学や授業評価を行い、授業改善に役立てる工夫を行った。

○実施体制

単位互換提供科目は、対面式、ｅラーニングとも、４月（前期・通年科目）および６月（後期科目）に提供科目をとりまとめて各大学の学生に周知し、学生の所属大学の教務課で受講希望をとりまとめ、授業提供大学の教務課宛に受講出願を行う体制をとった。

「共同授業」も同様に対面式、ｅラーニングとも期ごとに学生の出願を受け付けた。高校生の「共同授業」の受け入れについては、地元の公立高校の進路指導協議会が各校の受講希望書類をとりまとめ、「共同授業」担当事務局に届ける体制をとった。

「高校生のための”大学”セミナー」については、28 大学全てが役割を分担して取組み、毎年夏休みに 2 泊 3 日で実施した。このセミナーは、高校生に大学前教養導入教育として、協力大学の宣伝は一切せず、大学で何を学ぶかということや、人生で学ぶことの意味をしっかり高校生に自覚させるためのプログラムであることをホームページ等で全国の高校生に呼びかけ、参加を募った。

単位互換提供科目や「共同授業」、「高校生のための”大学”セミナー」のｅラーニングの収録および受講管理等については、28 大学が共同で運営する事務局および、業務委託により行った。

○各年度の実施内容

・平成 16 年度（取組開始時期は後期）

単位互換：全提供科目数は 915 科目、受講者数は 356 名。単位互換促進のため、全大学の学長によるｅラーニング「学びの特色ガイダンス」をアップロードして学生に周知させた。

「共同授業」：従来の対面式授業に加え、翌年度から 4 テーマのうち 2 テーマを対面式プラスｅラーニングにより開講することとしたため、講師への説明等の準備を行った。16 年度の全受講者数は 520 名で、うち大学生 472 名、高校生 48 名であった。

大学前教養導入教育：高校生の「共同授業」への受け入れを行った。
地元神奈川県立高等学校進路指導協議会の役員と 17 年度実施予定の「高校生のための”大学”セミナー」に向けての打合せを行った。

サテライト授業：時間的、物理的制約により受講困難な学生の便宜を図るため、渋谷にサテライト教室を確保した。16 年度は試行的にｅラーニング研修会を実施した。

ｅラーニング：17 年度からの本格実施に向け、サーバの設置、必要なソフトの設定を行った。さらに、各大学でｅラーニングコンテンツを作成できるよう、全大学の教職員を対象にｅラーニングコンテンツ作成および教材管理について、各自でパソコンを使っての 6 時間におよぶ実地研修を 3 回行った。

評価システム：ｅラーニング化した「共同授業」は、ＦＤ活動としてとらえられるため、17 年度より教員の授業見学や授業評価による授業改善を行うこととした。

・平成 17 年度

単位互換：全提供科目数は 1,376 科目、受講者数は 447 名。うち、ｅラーニング提供科目数は 2 科目で受講者数は 17 名であった。

「共同授業」：17 年度の全受講者数は 435 名。うち大学生 405 名、高校生 30 名（うちｅラーニング 12 名）であった。

大学前教養導入教育：高校生の「共同授業」への受け入れを行い、学びの動機付けの 2 泊 3 日の合宿セミナー「高校生のための”大学”セミナー」を実施した。参加者は 66 名。

サテライト授業：単位互換授業 1 科目、「共同授業」１科目を渋谷のサテライト教室で実施した。いずれも対面式授業に加え、ｅラーニング収録も行ってコンテンツ化した。

ｅラーニング：本格稼動のためにデータベースサーバを用意し、メール以外の教員・学生双方向の意見交換を可能とするための掲示板機能を追加した。単位互換科目では 2 科目を開講、受講生は 17 名。「共同授業」では 2 テーマがｅラーニングも平行して実施した。「共同授業」のｅラーニング受講生は 12 名（うち高校生 2 名）であった。

評価システム：公開的要素の強い「共同授業」について、学生への授業アンケート調査を実施。ｅラーニングを実施した「共同授業」２テーマについては全加盟大学の教職員に呼びかけて web 上の授業見学と授業評価を行い、その集計結果を各大学に伝えた。

・平成 18 年度

単位互換：全提供科目数は 1,503 科目、受講者数は 803 名。うち、ｅラーニング提供科目数は 8 科目、受講者数は 539 名に増加した。

「共同授業」：18 年度の全受講者数は 660 名、うち大学生 633 名、高校生 27 名（うちｅラーニングは 54 名）であった。

大学前教養導入教育：高校生の「共同授業」への受け入れを行うとともに、学びの動機付けとして、合宿セミナー「高校生のための”大学”セミナー」を実施。51 名が参加した。

サテライト授業：都心での教室確保が困難となったため、サテライト授業の実施はできなかったが、ｅラーニングを充実させる方向で学生への便宜を図ることとした。

ｅラーニング：単位互換科目では 8 科目を開講、受講生は計 539 名。「共同授業」では 3 テーマがｅラーニングを平行して実施した。「共同授業」のｅラーニング受講生は 54 名（うち高校生 1 名）であった。さらに「共同授業」の対面式受講生にも授業後に再度授業の確認ができるよう対面式授業受講者 606 名全員にそれぞれの閲覧用ＩＤ、パスワードを配布した。

評価システム：公開的要素の強い「共同授業」について、学生への授業アンケート調査を実施。ｅラーニングを実施した「共同授業」3 テーマについては全加盟大学の教職員に呼びかけて web 上の授業見学および授業評価を行い、その集計結果を全加盟大学に配布した。

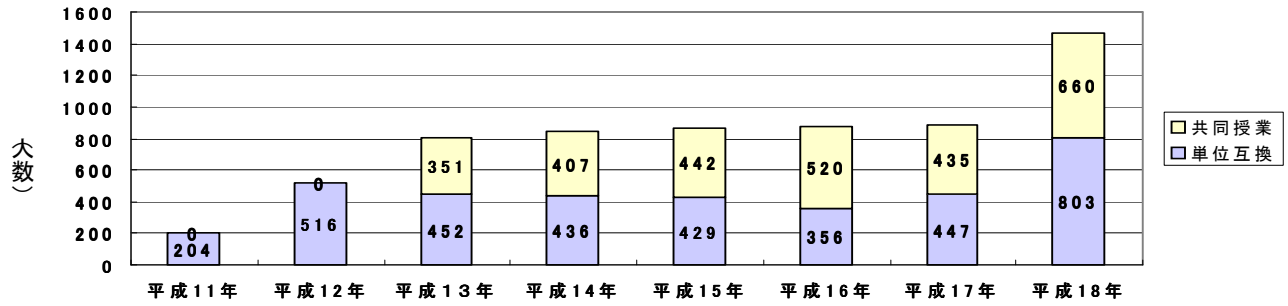
目的に対する成果、人材養成面での達成度

○取組の目標や課題に対する達成度

単位互換および「共同授業」、「高校生のための”大学”セミナー」を深化させるためのｅラーニング化が実現し、受講者を増やすことができた。ｅラーニングの受講確認についてのチェックシステムも構築し、授業についての厳密な受講確認テストが行われ、ｅラーニング機能の充実が果たされた。

教養教育の総合的取組として単位互換科目や「共同授業」の実施については、ｅラーニングを導入することによって取組初年度の 16 年度の単位互換と「共同授業」の受講者合計 876 名から、最終年度の 18 年度には本取組の成果が上がり、単位互換と「共同授業」の受講者合計が 1,463 名（うちｅラーニング 593 名）と大幅に増加し、本取組の目標である教養教育の充実を促進させることができた。

【グラフ１】単位互換科目と共同授業の受講者数推移



○就職への影響等

幅広い提供科目の受講により、学びへの意欲が触発され、それが豊かな教養へと繋がった。この教養の蓄積は、さまざまな生活場面で活かされ、就職面にも好影響を与えることができた。

自大学の教育改革への影響、他大学等への波及効果、地域社会等への波及効果

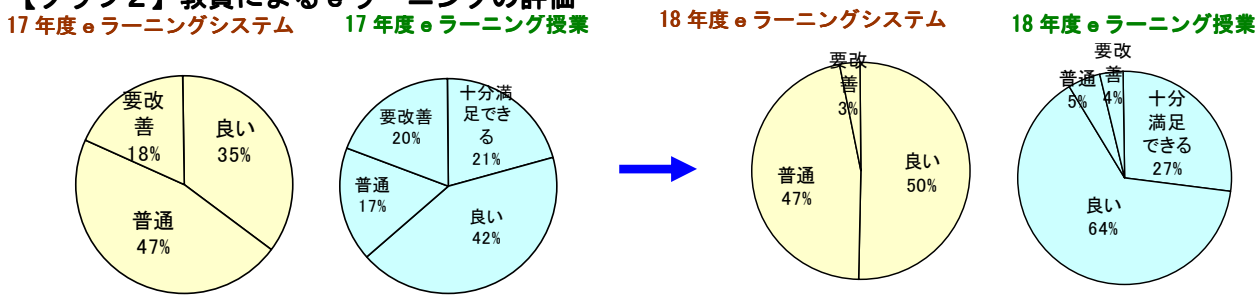
○効率化・新たな付加価値の創出

従来から続けてきた対面式の単位互換授業や「共同授業」について、多忙な学生のニーズに応え、いつでも、どこからでも受講できるオンデマンド方式のｅラーニングによる授業配信を行うことができたことは学生生活や大学運営の効率化に大きく貢献した。

○教員による授業評価（「共同授業」）

ｅラーニングの実施により、教員による授業見学が容易になったため、「共同授業」の授業評価をｅラーニング上で行うことにした。これにより、教員がいつでもどこからでも授業見学や授業を評価ができることとなり、ｅラーニングシステムの改善や授業内容の改善に役立てることができた。

【グラフ２】教員によるｅラーニングの評価



○広報活動の状況

単位互換制度や提供科目一覧、「共同授業」の実施状況、「高校生のための”大学”セミナー」の紹介やｅラーニングをホームページで紹介し、各地から招かれた講演会でも取組を紹介した。

○他大学や地域社会・関係団体等への波及効果

本取組の中の単位互換制度やそれを支援するためのｅラーニングの効果が評価され、近隣のコンソーシアムとのｅラーニングコンテンツの共有や単位互換科目の共有など、協力関係が提案され、実施に向け検討することとなった。

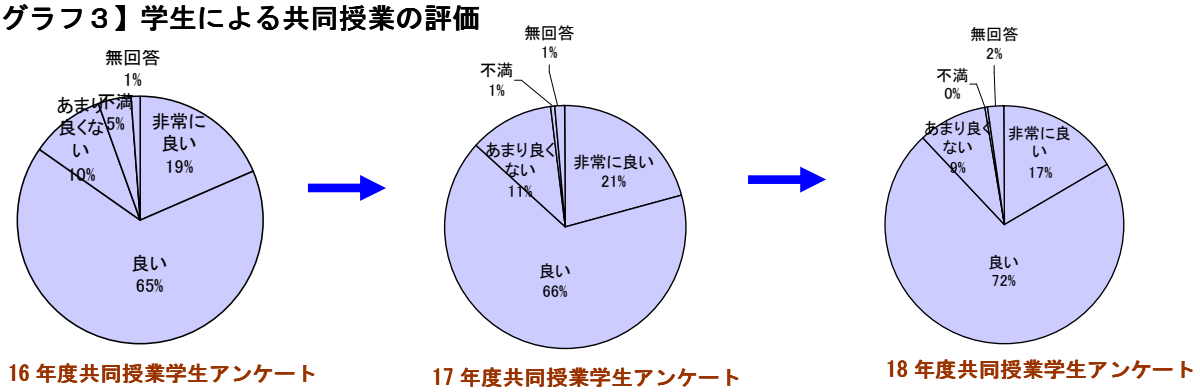
学生等の評価

○学生による授業評価アンケート、意識調査等（「共同授業」）

下グラフは「共同授業」の学生によるアンケート結果の推移（アンケートのうちの総合評価）。

授業評価のアンケート結果を次年度の授業に反映させることにより、年毎に評価が高くなった。

【グラフ３】学生による共同授業の評価



学外からの評価

○地域社会、自治体、関係団体等からの評価

関西、九州、東北地区の大学やコンソーシアムから本取組についての説明や講演依頼があり、講演や説明において、高い評価を得た。殊に「高校生のための”大学”セミナー」と単位互換を伴うｅラーニングについて評価され、各組織でも本取組に倣って同様の取組を行いたいとの意見が聞かれた。

地元自治体にも評価され、広報誌、町田市のホームページでも紹介された。

○報道の反応

特に大学前教養導入教育について高く評価され、高校教員対象の月刊誌『高校教育』2006 年（平成 18 年）７月号に 5 頁にわたって掲載されたほか、読売新聞多摩版（平成 17 年 7 月 27 日）、「大学新聞」（平成 18 年 6 月 25 日）や地域新聞「武相新聞」（平成 17 年 8 月 6 日）などにも記事掲載された。

取組支援期間終了後の展開

○取組の成果を活かした継続的な事業の実施

大学生の単位互換科目と「共同授業」のｅラーニングによる受講が大幅に伸びたことにより、全体の受講率がアップした。今後もｅラーニング化を進め、学びの支援を充実させていく予定である。

○新たな事業展開の計画

他コンソーシアムにも大学前教養導入教育の実施を呼びかけるとともに、ｅラーニングコンテンツの共有による単位互換を呼びかけるなど、本取組を広げていくことを計画している。

本件お問合せ先　　桜美林大学総合研究機構事務局　042-797-9914